

ライフケアガーデン熱川 別館

症 例 概 要 利用者:90代後半、女性、要支援2

病名:貧血、肺癌、腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症、

既往で肋骨骨折・胸椎圧迫骨折

経過:地元の生まれ。結婚後は、ご主人の仕事の都合で、K県、S県、F県と転居し、ご主人の定年とともに、地元に戻られた。約10年前に、ご主人を亡くされてからは独居となり、今年4月の貧血の治療のために熱川温泉病院に入院され、その時に末期の乳癌も見つかった。延命治療は希望しなかったためすぐに退院となったが、独居に戻ることも不安があったため、地元を離れず、主治医も変えなくて済むライフケアガーデン熱川に入居することとなった。

内 容

元々社交的な性格でありましたが、慣れない環境と、体力低下による転倒のしやすさから、自室に引きこもりがちでした。また、実際、自室で転倒されたこともあり、移動は見守り対応でありましたが、なかなかナースコールを押すのを遠慮してしまう性格もあったため、立ち上がった時にすぐに介護士が見守りできるように、センサーコールを設置することになりました。

自室に引きこもりがちで、寂しさとさらなる体力低下が懸念され、部屋がロビーから離れたところにあることもあり、介護士は日中なるべく訪室して声掛けに努めました。また、地元の出身であるために、たまたまご親戚が施設管理課のスタッフでいたため、顔見知りの者が声掛けしながら、部屋の外に連れ出し、コミュニケーションを取ることもできました。

スタッフとともに部屋から出てよく歩くことが習慣化されると、徐々にふらつきがなくなって歩行が安定してきました。そこで、センサーコールを外すことができ、お一人での施設内移動の見守りが解除されました。自由に施設内を歩けるようになると、毎日、ロビーまで歩いてきては、テーブルで楽しそうにおしゃべりされる姿が見られるようになりました。さらに、運動会などのイベントがあると、明るい性格が発揮されて、盛り上げ役となって大活躍されています。

体力低下による転倒のしやすさから部屋に閉じこもりがちでありましたが、スタッフが協力して、声掛けや散歩へ連れ出すなどして、本来の明るく社交的な性格を取り戻すことができました。